

五島列島最大の溶岩トンネル

溶岩トンネル（溶岩洞ともいいます）とは、火山噴火により超高温の溶岩が流出した際に作られる洞窟です。溶岩は進路上のあらゆるものを溶かして流れます。岩も例外ではありません。溶岩の中心部は極めて高温を保ちますが（ある計算によると、1km 進むごとにわずか 1 度しか下がりません）、表面は空気や水に触れた瞬間、急速に温度が下がります。溶岩のこうした特性により、不思議な地質現象が起こります。温度の下がった溶岩は、冷えた部分が急速に固まって「屋根」になり、高温の中心部は流れ続けます。多くの場合、溶岩が吹き出して途切れると、流れた跡に空洞が残ります。

長く、暗く、海水で満たされた空間

過去の火山活動により、富江には溶岩トンネルが数多く存在します。その中でも井坑は最も規模が大きく、全長は 1,400m 以上に及びます。広い入口から入って約 400m の地点では、洞窟の幅が 1m ほどまで狭まり、海水で満たされています。海水の存在は、洞窟が地下で海と繋がっていることを示しています。

珍しい洞穴生物

井坑の特徴はその大きさだけではありません。研究者たちが洞窟内部でこの地特有の珍しい生物など、様々な洞穴生物を発見しているのです。例えば、洞窟の暗い場所に溜まった水には、小型の海洋動物が生息しています。洞窟に定住するドウクツミズハゼは、とても小さな盲目種のハゼです。興味深い魚ですが非常に珍しく、絶滅危惧種に指定されています。発見されている場所は、日本国内でここを含めて 2 箇所だけです。

安全上の懸念から、「井坑」溶岩トンネルは一般の立ち入りが禁止されています。しかし、巨大な入り口からは内部を良く見渡すことができ、人気の観光スポットになっています。